

丹波市教育大綱

未来へつなぐ教育

(令和2年度～令和6年度)

この大綱は、丹波市が取り組む教育施策の基本方針を示したもので、次の4項目を重点施策として掲げます。

1 ふるさとに愛着と誇りを

- (1) 丹波市市民憲章に謳われた「おかえり文化」を再確認し継承する。
- (2) 地域を支え・創る「まちの幸福論」を語り「持続可能なふるさと」の実現に寄与する。
- (3) バックキャスティング※1 思考で実現する夢と希望のあるふるさとをつくる。
- (4) 学校給食は、「地産地消」「身土不二※2」の精神で旬の地場産野菜の活用に取り組む。

※1 バックキャスティング 未来のある時点に目標を設定しておき、そこから振り返って現在すべきことを考える方法。

※2 身土不二 人間の身体と土地は切り離せない関係にあるということ。

2 大きな時代の流れを鋭敏にキャッチ

- (1) ICTによる技術革新、プログラミング教育※3の実施に向けて質の高い環境を整備する。
- (2) 人生100年時代と少子化に向き合い、社会全体・地域ぐるみで教育力を高める。
- (3) 教育こそSDGs※4の基礎であるため、SDGsを取り入れたESD※5を推進する。

※3 プログラミング教育 令和2年度から小学校で必修化される教育。児童は、プログラミングを体験しながら、論理的思考力を身に付ける。

※4 SDGs 2015年に国連において全会一致で採択された「持続可能な開発目標」。Sustainable Development Goalsの略。

※5 ESD 持続可能な社会の担い手づくりを通じて、SDGsの17すべての目標の達成に貢献する。Education for Sustainable Developmentの略。

3 安心して学べる居場所づくり

- (1) 個別に支援が必要な児童生徒に寄り添うとともに、インクルーシブ教育※6システムの構築をめざす。
- (2) 文化的な違いを認め合い、共に生きていくことができる多文化共生社会の実現をめざす。
- (3) 多様化する人権課題の解決に向けて、市民の主体的な人権学習を支援する。

※6 インクルーシブ教育 障がいの有無に関係なく、可能な限り共に教育を受けること。

4 生涯を通じて「学び」「活躍する」市民を増やす

- (1) 真の「住民自治」の精神を育み、主体的に地域づくりに参加する市民を増やす。
- (2) すべての世代において「知識循環型生涯学習」を実現し、「生きる力」を育む。
- (3) 一人ひとりがキャリア形成と自己実現をめざし「生きがい」を持つ。
- (4) 文化・芸術・スポーツを通じ、心身の健康を保ち、こころ豊かな市民生活を創り出す。



雲海に包まれた国指定史跡黒井城跡

